

あきた

直言温言

秋田に対岸から追い風が吹いている。一つは、満員の搭乗客を乗せたソウル便。韓国の人気ドラマ「IRIS(アイリス)」の本県での撮影をきっかけに、ロケ地ツアーの観光客が急増している。「アイリス効果」である。もう一つは、8日に始まった秋田港シーアンドレール構想の2回目の実証試験。ロシア定期コンテナ航路実現に向けての新たな船出である。海路にも追い風が吹くかどうかはこれからの努力次第だ。空、海で鍵を握るのは「乗客」「積み荷」の確

千葉 康弘

中国河北師範大客員教授

好調ソウル便

会議では、本県ともかわりりの深い港湾戦略、ロシアビジネス関連などについて話し合われた。ロシア現政権は政策を極東重視の方向に転換させている。「極東ザバイカル社会経済発展プログラム」は約2兆6千万円。す

次は極東ロシアの番

保である。1月下旬に新潟市で開催された二つの会合に参加した。「北東アジア経済発展国際会議」と「日ロ極東地域間経済協力促進会議」である。両会議ともに金融危機後の物流、環境・エネルギー、食糧・農業などの経済協力について議論した。特に日ロ

でに開発されているサハリン石油開発協力の「サハリンプロジェクト」もある。ウラジオストクでは2012年秋にアジア太平洋経済協力会議(APEC)の首脳会議が開かれる。その開催に合わせ、いま、APEC関連プロジェクトが進んでいる。大規模な建設プロジェクトで予

た。このうち2割がロシア極東自治体の案件という。本県は本州ではロシア極東港湾に最も近い。秋田、男鹿、能代、由利本荘の各市は日ロ沿岸市長会議に参加し、さまざまな交流をした経験を持つ。同市長会議は1993年に秋田市で開催されている。秋田市とウラジオ

療の取り組みを紹介した。これに対して早速、ハバロフスクにある医療専門家養成大学のサラワト・スレイマノフ学長が関心を示し、詳細な説明を求めた。同学長は「医療分野における協力拡大」をテーマに研究報告していた。人口減少や高齢化の進行は、秋田と同様に同地域でも課題となっているという。国境を越えての医療交流は、地域活性化に結びつく有効な手段である。

オストクは姉妹都市提携しており、県内各地でロシア

「アイリス効果」は人と人とのつながりをきっかけに生まれ、官民一体で地域振興に結びつけようという取り組み事例だ。一方、極東ロシアにも長年



算は総額約1兆円以上といわれている。昨年5月、プーチン首相が来日、日本側に地熱発電所など181項目の協力要請を行った。昨年10月に佐竹敬久知事はウラジオストクを訪れ、ロシア沿岸海地方行政府と経済・文化交流促進協定締結で基本合意した。先の新潟での日ロ会議で筆者は、秋田港シーアンドレール構想をはじめ、生活習慣病克服に挑戦している秋田県立脳血管研究センターなどの先端的高度医療

あきた 経済